日刊 動労千葉

86. 9. 22

No. 2358

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

5万5千名仲間の人活送り！

強制収容所 人権侵害

を企む11月ダイ改を許すな！

国交拒否して「事前作業」を一方強行する当局弾劾

国鉄当局は、動労千葉や国労の組合役員・活動家を「人材活用センター」に強制収容、一方で職場にのこった労働者にすさまじい労働強化をおしつけている。情況の下で当局は、八月末に約一万五千人「一一月ダイ改」後には五万五千人もの労働者を「人活」に送りこまんとしている。いま「人活」から闘いが開始されている。この闘いをすべての職場に拡げ総反撃に起とう。

人権侵害、不当労働行為

組合役員や活動家が運転や営業、施設の職場からひきはがされ、しかも、強制配転された「人活」では、草むしり、車内のガム掃除、ロッカーのペンキ塗り、文鎮づくりなどさまざまの雑用が「自分の言うことはすべて業務命令、逆らうのは業務命令違反だ。反省文を書け」と恫喝する職制の監視下で強制される。

人権侵害、不当労働行為そのものの「人活」を当局は「説明はするが団交はしない」との対応をとっている。

もうがまんできない

七月一日、抜き打ち的に「人活センター」へ強制配転が行われた。これが選別・差別のため当局が作成した「職員管理調書」にもとづき振り分けられている。そればかりか、多能化教育等と称し、動労革マル分子を運転から営業・電力・車掌などへ配転させ、国労組合員を「人活」へ玉突きで送りこむことが当局と結託し行われている。

一方で当局は「人活の実態」を何んとか陰ペイせんがために、多車種転換教育とか、三億円のワープロを導入などをやりはじめた。

だが「人活」攻撃が国労・動労千葉つぶしの攻撃であることは誰もが信じて疑わない事実である。

中曽根・当局の暴虐に対し「もうこれ以上がまんできない」という声が全国に満ちあふれてきた。

中曽根は労働者の決起を何よりも恐れている。九―十月決起で闘おう。

10.12 全国から清水谷公園へ 国会デモへ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

週刊火火

ほのお 第117号 86.9.6

動労千葉成田支部 責任者 森内猛 発行 教宣部

何んと！佐倉人活で ロッカー直せ。と業務命令！？

この暴挙を生涯忘れんぞ！！

反動千葉転区長・川名に糾弾の嵐をたたきつける

佐倉人活センターへ一方的に強行配転された四名（成田三、佐倉一）は、日々一歩も屈せず闘いぬいている。これにイラだつ千葉鉄当局は、反動で名高い川名を使い、何んと！「ロッカーを直せ」と「業務命令」を発した。この前代未聞の珍事、暴挙に人活の仲間は厳しい怒りをたたきつけた。

手引者（命令）和田・斉藤（東京車掌区）赤間 湯原。お前達四名も同罪だ。

事の起りは、九月四日、四名が駅に待機している所へ千葉転区長川名がやってきて、「黙しがあるここへ座れ」と言葉をはいた事だった。そもそも四名は川名を見た事もなく、いきなり侵入して来たこの人物に「あんたはだれだ」と問うと、始めて「チバ転区長の川名だ」と名乗る有り様だ。そして次に「業務命令だ。ロッカーを直せ！」と叫びだした。人活の仲間は「人活指名は一方的で納得せない」「将来展望を明らかにしろ」「何ゆえ業務命令で直しなのか」と抗議をたたきつけると「俺は区長だ命令に従え」と聞き返すのだった。

次いで午後からは三タテと「話し合いましょう」と入って来たが、数分後には化けの皮もはがれ、「業務命令だ、これを受け取れ」と命令書なるものをなげすててはスタコラ帰ってしまったのである。川名よ、「命令」だけで屈服することでも思っているのか、甚だしき誤り。指令に従った抗議の嵐で思い知っただろう。

同時に、和田、斉藤、赤間、湯原四名の手引きによってやられた事はまぎれもない事実。中でも湯原は、酒井、井上、つどえ隊員の中に「特権人物集合」なるものをでッチ上げた張本人者だ。いかなる攻撃をうけようが中三労に向け闘うぞ！

週刊火火

ほのお 第118号 86.9.16

動労千葉成田支部 責任者 森内猛 発行 教宣部

首を切られるべきは反動職制共だ！

―センター班の怒りの抗議に反動共たじたじ！―

『区長面接』破産に追い込む！！

反動・小野は、「区長面接」と称し、おそれもなく怒り渦巻く「佐倉人活センター」へ、これまた無礼で反動たる青年清水谷某を従えてのこのこ現れた。もとより反動・小野の自編見を見抜いている我々「センター班」の仲間は、小野が真実をしゃべろうとしないのを見て、いっせいに「面接」とやらに入ろうとせずに、抗議の嵐を浴びせた。小野よ！我々の怒りを思い知れ！「収容所」へ送り込み、今度は何んの用だ。」「国鉄改革だと、嘆かわしいなあ！お前らのやっていることは改革ではなくて解体ではないか！」「全ての責任は当局がとれ！」抗議の嵐に反動共は完全なる"失語症"におちいり、なすすべなくたたうなだれるばかり。我々は更に、首切り分割・民営化による人活センター粉砕・第三労ストライキ決起！・左反動共に切りつけ、その日、実力で小野・森田業を追い返し、「面接」を破産に追い込んだ。

成田運転区長・上を一カ月半怪に捕えて、いまや全国に小野の全高動、一般青年労働者は成田支部百名の首切りに向けられている。小野は我々の首を一度は「センター」で切り、二度目に「なのはな」等で切り、なお押しに「旧国鉄」で切ろうとする張本人だ。こんな反動共をのさばらせてなるものか。

『犯罪者・小野の追放！

・自民報告書・小野の暴く

名ばかりの反動職制・小野指・その悪名は「映画」にて全国に暴露。この小野が、いま何をしているか、怒りなしには語れない。百名分の血を吸いつくし、己の生き残りをはかって、かの小野は、"自民報告書"をふところに隠いている。我々は、こんな反動を一日たりとも延命させる訳にはゆかない。首を切られるべきは反動共だ。自殺に追い込まれるべきは、反動小野だ。第三労働者全国ゼネストの渦中で全反動職制を葬れ！！

動力車会館

(9月12日 信濃毎日)

「人活センター」国鉄対立

長野でハンスト突入

長鉄局が余剰人員活用のため設置した人材活用センターに抗議するため、国労長野地本長野運転本所分会などの組合員有志でつくる「ハンスト実行委員会」（石沢正委員長）は十一日夜から、長野駅東口前の空き地で、三日間のハンガーストライキに入った。当局と国労の間で全国的に対立が激化している人活センター問題をめぐるハンスト突入は、福岡、岡山などに続き全国四番目。テントの中で常時四、五人が四十八時間―二十四時間交代で、合計約十五人が絶食したまま座り込みを続ける方針だ。

共闘会議 大規模座り込みへ

人活センターに抗議、ハンストに入った国労組合員

ハンストの一方、支援者たちは「人活センター内での人権侵害」などを訴えるチラシを駅利用者に配布し、スピーカーでの街頭宣伝も行う。また、中曽根首相、杉浦国鉄総裁、藤田長鉄局長らに「無人駅への駅員配置」「国労組合員への昇給差別撤回」などを求める要求書も出す方針だ。

ハンスト実行委員会は長野第一運転区、篠ノ井機関区、長野保線区の人活センター所員ら約百五十人で組織。国労内の左派が中心となり、実行委員会方式で実施した。

ハンストに先立ち約八十人が参加して開いた抗議集会には、革新系の県議、市議、高教組など支援団体の役員らが参加、現行の国鉄改革の不当性を訴えた。長野駅前のハンスト現場では、長鉄局の管理職が夜遅くまで遠巻きにし、緊張した空気となった。

一方、国労長野地本と県評などでつくる「国鉄労働者を支援する共闘会議」（議長・宮原県評議長）も十六日から十八日まで、長野、松本両駅周辺で、政府の国鉄改革関連法案に反対する大規模な座り込みを行う。こうしたハンスト、座り込みは国会審議のヤマ場に向け、反復して行う計画だ。

国労組合員ら

分割・民営化絶対阻止―9・10月全国総決起―10・12国会デモ―動労千葉オ三波決起と固く結合して、勝利へむけ闘いぬこう！

闘争宣言

政府・自民党はいよいよ今日（九月十一日）から始まった臨時国会において、多くの国民と国鉄労働者の切なる声を無視して、国鉄解体法案を上程し、一気に強行成立をはかろうとしている。多くを語るまでもなく、国鉄の『分割・民営化』とは、㊀国鉄労働者十万人の首を切り ㊁国民一人当り十四万円の増税を行ない、㊂ローカル線を切りすて、㊃国鉄の安全性、公共性を投げすてるものである。これに反対するのは至極当然である。三千五〇〇万を越える国民の反対署名はそのことを如実に物語っている。

もう一つは、国鉄労働組合の解体である『分割・民営化』に反対する国労つぶしの為に、労働者の人格も権利も否定し、政府・当局に忠誠を誓う者以外は認めない。抵抗し、闘う労働者には情容赦ない弾圧と処分・排除の攻撃という労働現場における実態が、つぶさに物語っている。

その象徴ともいえるのが、大量首切り、国労解体をめざした『人活センター』である。強制収容所ともいうべき『人活センター』は、役員活動家を首切要員として大量に収容し本来の仕事を与えず固定化して、組合機能をマヒさせ国労を解体させる何ものでもない。しかも人権侵害、不当労働行為がまかりとおっている。もはや国鉄には、憲法も人権も権利もない。あるのは当局にコビを売り奴隷宣言（労使共同宣言）を誓った者のみが存在を許されている。

我々はこれを黙っていられようか。闘わずしていられようか。断じて否である。もう我慢ができない。我々は腹の底から、国鉄をつぶすな！ローカル線を守れ！一人の首切りも許すな！『首切り人活センター』なくせ！国労つぶしをやめろ！不当処分を撤回しろ！と叫び、立上った。

そして今日ここに国鉄労働者・家族が四日間のハンスト行動に決起したのである。人権無視・首切りの人活センター粉砕！本来の職場と仕事に戻せ!!の問題は、緊急かつ重大な問題である。我々は、労働者・人間としての存在をかけて断呼として最後まで闘い抜く事をここに宣言する。

一九八六年 九月十一日

分割・民営化反対！人材活用センターつぶせ！
ハンスト実行委員会

↑長野第一運転区、篠ノ井機関区、長野保線区等々の「人活センター」で530名の仲間が闘っている。

↑「6ヵ月停職」の不当処分に抗して闘いを牽引する篠ノ井機関区の仲間たち。

9月11日より 長野の仲間たち、「人活」を先頭にハンガーストに決起!!

★「人権無視・首切りの人活センター粉砕」
「不当処分粉砕」そして、全国の闘う仲間の総決起・総反撃を誓えて、長野の仲間が生命がけの決起！国労長野地本と長野県評による「共闘会議」傘下の労働者も支援・共闘の闘いにたち上った。
国労中央の屈服のりこえて全国から決起が始まった。

※全国でも 仲間の情報・資料をどんどん寄せて下さい。（『日刊』編集局）

・合理化 → 安全・サービス無視 長人駅・新幹線直営 → 駅員は人材活用センター 仕事は与えない・雑用

「人材活用センター」は国鉄労働者の強制収容所

「分割・民営化」に先がけ 国鉄労働者を振り分け

国鉄当局は、七月一日に「余剰人員対策」と称し、組合との協議もなく「人材活用センター」を設置しました。これまで全国千十ヵ所に置かれ、約一万二千人が送りこまれています。長野鉄道管理局内においても二十ヵ所五百三十名（内、国労組合員五百二十名）が発令され「人材活用センター」へ送りこまれています。（九八六年八月七日現在）

組合役員など次々に発令

「人材活用センター」へ送りこまれた大部分の人が、国労組合員であり、その中でも、組合役員、青年労働者、病弱者がほとんどです。ふだん、「分割・民営化」に反対の意志を示す者、組合活動を行なっている者など当局は「見せしめ」でどんどん「人材活用センター」へ発令を出します。

「人活センター」は隔離状態

「人材活用センター」は、使われなくなった倉庫、廃止された職場の建物を勤務場所として、現場とはかけはなれたところにあり、隔離状態にされています。まさしく「人材活用センター」は国鉄労働者の強制収容所なのです。

NO.1 国鉄労働組合長野地本 青年部 TEL 0262-26-4590

↑国労長野地本の青年部の仲間は、ハンストと同時に、街頭情宣にうって出ている。